

妙義 相馬沢から相馬岳北稜

大田原

【日時】 2011年11月30日(水)

【メンバー】L大田原、佐貫

たらったった～らら～ら～ら～♪
(「世界の車窓から」より)

平日クラブは佐貫さんを迎え、今日は『仙人窟』
『はさみ岩』を擁する相馬岳北稜を目指す山旅で
す。

お互い夜に用事を持つ身であったので、末端か
らのトレースは諦め、車回収の容易な相馬沢から入

り、登山道の相馬岳コースを下降するルート取りにした。足回りはアクアステルスである。沢沿いには右岸に踏み跡があり、主にそれを辿っていく。右岸からはっきりした切れ込みで出合う枝沢に入ると、周囲に岩峰を見るようになる。岩峰にはキノコのようにボツボツと枯れた植物が生え、佐貫さん曰く「フジツボ」のよう。さらに二俣に分かれたところで間の小尾根を詰めていくと、ここは岩峰の一角であったらしく、10m程の懸垂下降を強いられた。どうやら沢沿いに詰めていくのが正解だったようである。右前方にルンゼがあり、稜線のコルに出られそうだったので入っていく。ルンゼは段々急になり、慎重に登っていくと赤テープのある狭いコルに出た。末端から北稜を辿ってきてもここに出るのだろう。目の前には両側の切り立った岩峰が聳え、ルートは直登しか考えられない。ロープを出して、踏まれている稜上を登り始める。灌木でランニングは取れる。立った岩に突き当たると、古い残置ハーケンとスリングがある。ホールドが乏しいので皆A0してるのかな。だが、ハーケンはサビサビで今にも折れそう、スリングも風化しつつある感じ。何回も引っ張ってチェックをしていると、そのすぐ下に新し目のハーケンも発見。でもグラついている。その横にはカムも使えそう。でもハーケンもカムもいらなかなと思ったのでザックの中にあり、出すのも面倒だ。バイルもしまいこんでいる。しばしの逡巡後、残置両方にランニングを取り思い切ってA0。外傾したスタンスに立ちこみ、抜けそうな枯木と指よりも細い灌木を頼りにこれを越えた。周囲を見回すと、ここが北稜上で一番高い岩峰だった。あとでネットで調べると、ここは北稜の核心とされるP12であったようだ。両側が切れているので念のためスタカットのまま進む。緩く下っていくと小さなギャップとなる。左手斜面を巻き下り、再び稜上へ。また小ギャップとなり、稜伝いに行けそうでもあったが、左斜面を巻き下る。ここでロープはし



【うふふ、あそこを登ったのね】

まう。P12ピーク以降ロープはなくても大丈夫そうだったが、何となくしまいそびれていたのだ。再び稜上に戻って進むと、足下が岩のアーチであることに気がついた。おお、ここが仙人窟か！岩を下り、トンネル確認。意外と小さいがなかなかの造形である。気づかないまま通り過ぎなくてよかった。すぐはさみ岩となるが、ここは左より巻く。もう岩峰登りなどないので、あとはひたすらハイキングである。相馬岳まで意外と遠い。えっちらおっちら汗かきながら登っていき、小春日和の相馬岳に登りついた。山頂で佐貫さんお手製たらこ混ぜおにぎりに舌鼓を打つ。あとは登山道、と気楽に構えていたが、そこは妙義。長〜い鎖場や滑る急斜面の下降など、微妙に緊張をさせられる。中ほどまで下ると、ひょっこり岩窓が。



【仙人窟】

穴を通して相馬岳北稜が見事に望める。まるで車窓のようで、窓外の景色を眺める旅人のようなポーズで記念撮影をする。再び黙々と下ると植林帯となり、チェーンソーで柴刈りをする作業員らがいる。そうか、今日は平日ですもんね。

さて、今回はP12から北稜を辿ったことになるので、P1からP11までのトレースをしないと北稜を完登したことにはならないだろう。佐貫さん、またお付き合いくださいね！

【グレード】 沢登りだと1級上くらい？

【行程】 相馬沢出合(7:25)～P12基部(9:10)～仙人窟(10:45)～相馬岳(11:45)～登山口(13:30)

【地図】 南軽井沢、松井田

